

賛否が分かれた議案



- 認定第1号 令和4年度一般会計歳入歳出決算認定について
- 認定第2号 令和4年度国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
- 認定第7号 令和4年度市民病院事業会計決算認定について

認定
賛成 18名
反対 3名

内容 令和4年度決算を認定する議案

反対討論

認定第1号について、解放学級事業は、市が「差別を受けなければならない地域はどこにも存在しない」としながら地域を限定していることは問題である。新ごみ処理施設整備事業のDBO方式での運営は、長期契約、市職員の専門的知識や技術の消失、時代に合わせた柔軟な変更への対応などに懸念がある。また、神戸市との消防指令業務の共同運用は、的確な出動指示の維持や、共同指令センターの配置場所などの問題があり、広域化という形の共同運用を進めるべきではないと考えるため、反対。

認定第2号について、基金の取り崩しをせずに済む決算が数年続いていることや、コロナ禍で厳しい状況の中、国保税を引き上げた決算は問題があると考え、反対。

認定第7号について、賃金が適切に支払われていなかったこと、職員の労働に対する病院の考え方や職場風土など、市民病院運営に問題があるため、反対。

(日本共産党三田市議団 長尾明憲)

賛成討論

認定第1号について、財政状況の健全度を示す各比率は、いずれも早期健全化基準を下回っており、引き続き健全な財政運営が行われている。解放学級事業は、あらゆる差別の解消に向けた学習活動として継続した取組が必要。新ごみ処理施設整備事業も、DBO方式によるコスト削減、財政負担の平準化を図る上で妥当。神戸市との消防指令業務の共同運用は、119番通報の受信の一元化による応援体制等の連携強化や財政面での効果が期待できることなどから、賛成。

認定第2号について、保険税率の上昇率を抑制した分につき、繰越金の充当により、財政調整基金を取り崩さず決算しているが、繰越金を除く単年度収支では赤字であり、概ね当初の見込みどおり運営されているため、賛成。

認定第7号について、職員の時間外勤務手当は、国のガイドラインに則り追加支給され、過年度損益修正損及び現年度分の給与費として決算に計上し、適切に処理されているため、賛成。

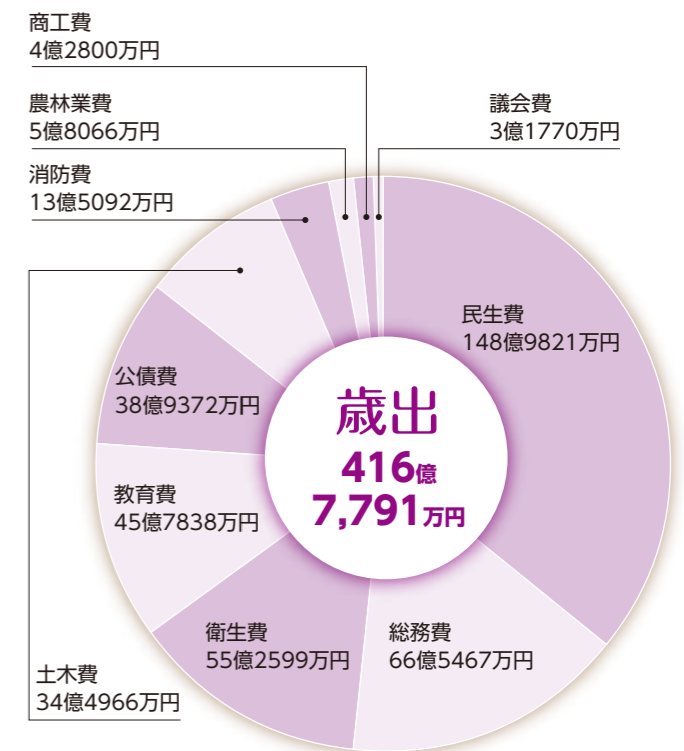
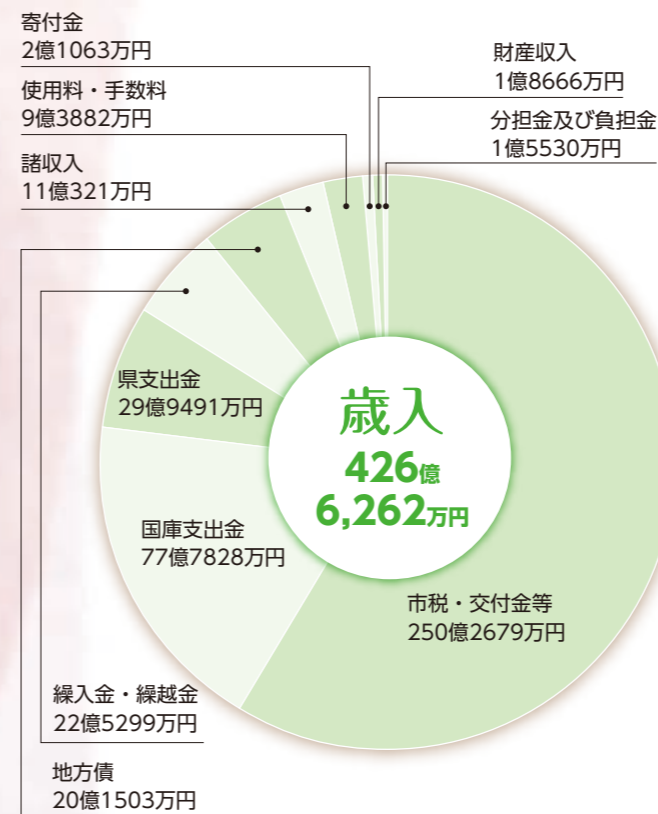
(公明党 福田佳則)

市のお金の使い方をCHECK! 令和4年度 決算を審査しました

市の予算が適正に執行されたかどうか、また、各事業が適正かつ効果的に行われているかどうかを審査する予算決算常任委員会を9月11日から14日に開催しました。各分科会(経営政策・福祉教育・生活地域分科会)での個別審査及び全体会での総括質疑を経て、討論・表決を行いました。

10月23日の臨時会において、一般会計、特別会計、企業会計の計9会計の決算が認定されました。

一般会計の決算状況



特別会計の決算状況

事業	歳入	歳出
国民健康保険事業	105億5,918万円	105億3,210万円
公営墓地整備事業	2,238万円	2,238万円
駐車場事業	3,256万円	2,758万円
介護保険事業	79億4,015万円	76億5,532万円
後期高齢者医療事業	26億7,784万円	26億3,434万円

企業会計の決算状況

事業	収入	支出	
市民病院事業	収益的	98億4,436万円	93億46万円
	資本的	9億8,581万円	14億6,841万円
水道事業	収益的	28億2,868万円	24億1,957万円
	資本的	11億4,419万円	19億2,715万円
下水道事業	収益的	28億7,428万円	26億9,569万円
	資本的	9億2,687万円	14億1,495万円

議員研修会を開催しました

10月20日に、「AIの急激な進化に行政はどのように向き合うか」をテーマに、関西学院大学副学長の巴波弘佳先生をお招きし、議員研修会を開催しました。市でも、Chat GPTの戦略的な活用に向けた庁内研究チームを設置し、生成AI試行利用を開始していることから、Chat GPTにできることや活用例、生成AIを使う上での問題点、自治体へのAI導入における課題などを学ぶよい機会となりました。全てをAIに頼るのではなく上手く活用することで、業務の効率化や住民サービス向上につなげていくことが大切であり、この学びをこれからの市政運営に生かしていきたいと思ひます。

説明 *Chat GPT: 対話型AI (人工知能) のチャットサービス

